

市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

「なかまのなかま」

ご縁のあった気仙沼の方々と連絡を取り合い、被災地のみなさんのニーズを聞きながら、それにあった支援活動となるよう、精一杯の知恵と工夫を出し合い、生活再建の手助けに取り組む「なかまのなかま」。かわぐち市民パートナーズステーション運営委員会が、東日本大震災復興支援プロジェクト部会として立ち上げ、被災地の支援に取り組んでいるみなさんを岡村市長が訪問。活動内容や支援への思いを聞きました。



市長 みなさんこんにちは。よいよ4月です。早いもので東日本大震災から1年がたちました。今月の市長のふれあい訪問は、気仙沼を中心とした復興支援ボランティアをしている「なかまのなかま」のみなさんです。どうぞよろしく願います。委員長の山崎さんに伺いますが、「なかまのなかま」はどのようなグループのですか。

山崎 かわぐち市民パートナーズステーションの運営委員会のメンバーで、東日本大震災の復興支援をしようと結成しました。運営委員会自体は年に3、4回の開催ですが、この活動のためには何度も打ち合わせなどを開く必要があるため、部会という形で活動を行っています。

市長 どのような経緯で立ち上げたのですか。

橋本 震災後すぐに何か被災地のお役に立てないかと考えていたところ、知人から紹介されたかたを通して、物資などを送ったのが始まりです。現地と、常



に連絡をとりながら被災者のみなさんのニーズにあった支援をしています。

金井 メンバーも、自分たちができる範囲のことを、できる人がやっています。

市長 被災地にも行かれているのですか。

熊井 5月に気仙沼に行きましたが、「がれき」を見て驚くより、「におい」のすごさにびっくりしました。

市長 私も行きましたが、あの「におい」はテレビや新聞では絶対に伝わってきません。

村本 私は10月に気仙沼に行き、仮設住宅に入居している方に話を聞いてきました。直接話を伺い現地を見ることで、どのような支援をしたら良いかなど今後の勉強になりました。

市長 どのような支援活動をしていますか。

小田 市内のイベントなどで気

仙沼産のふかひれスープやTシャツを販売しています。みなさん協力的でもの凄く売れます。

熊井 先月には気仙沼の面瀬中学校で、ソプラノ歌手、藤井あやさんのコンサートを開催し、大変喜んでいただきました。

市長 歌の力とか文化・芸術の力は本当に人を救うとあらためて感じますよね。ところで「なかまのなかま」というネーミングの由来は何ですか。

橋本 そのままです。仲間の仲間を増やしていこうという意味です。

市長 いい名前ですよね。これからも、長い支援活動が続くと思います。みなさんはどのようにお考えなのでしょう。

山崎 復興まではとても長い時間がかかると思いますが、変わらず、同じように継続して支援ができたらと思います。これからは、特に子どもの心の問題を考えていかなければと思っています。

橋本 そこで、川口の学校と気仙沼の学校の交流ができればと思っています。

市長 いいことですね。子どもたちが川口から被災地に行くと、現地を見ることが、それが何物にも代えがたい貴重な教材になりますね。

ほかにはどのような思いがありますか。

金井 気仙沼に行ってから、今できることをすごく考えるようになりました。子どもたちは私

たちの未来そのものなので、色んなことをしてあげたいと思います。

小田 主人と一緒に参加するようになり、二人の生きがいになっていますので、これからもできることからやっていきたいと思っています。

村本 「なかまのなかま」の活動を仲間を広げ、一緒に気仙沼のことを考えながら、先は長いですが少しでもできることをやっていきたいです。

市長 みなさんが現地のことを真剣に心配しながら支援されていることは本当にありがたいことだと思います。この思いがもっと広がっていくと社会が良くなっていくと思います。復興には時間がかかると思いますがみなさんの支援も長く続けられるよう、頑張っていただければと思います。今日はありがとうございました。

